



CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 日本農薬学会第40回記念大会ランチョンセミナーの御案内
- 日本農薬学会設立40周年記念事業に対する寄付について

平成26年度第3回常任評議員会議事録

日 時：平成26年9月6日（土）13:00～16:40

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員，第40回大会組織委員長 計12名（欠席3名）

議 事：

I. 平成26年度第2回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 財務関係

- ・平成26年度収支の現状（1月1日から9月3日まで）について報告があった。
- ・寄付事業の進捗について報告があった。

2. 編集委員会

- ・JPS第39巻3号と農薬誌2号の発行について報告があった。
- ・平成26年度の投稿審査状況について報告があった。
- ・論文賞候補論文の選考について報告があった。
- ・IUPAC2014関連記事の進捗状況について報告があった。

3. 環境委員会

- ・平成26年度の活動状況について説明があった。
- ・平成26年度の残留農薬分析セミナーの開催予定について説明があった。
- ・農薬の理解促進WGの活動状況について報告があった。

4. 将来計画委員会

- ・法人化に関する情報収集状況について報告があった。

5. ホームページ委員会

- ・活動状況について報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成27年度の日本農薬学会賞の候補者の選考状況について報告があった。
- ・第2回選考委員会は10月4日に開催される。

7. 植物保護科学連合

- ・平成26年度の日本学術会議シンポジウム（12月6日開催予定）では，当学会からの推薦で三芳秀人氏（京都大学）が講演する。

8. 日本農学会関連

- ・平成26年度第2回運営委員会が9月8日に予定されている。

9. 国際会議関連

- ・第18回国際植物保護会議（IPPC: International Plant protection Congress）の講演者として杉本幸裕氏（神戸大学）を推薦することを決定した。
- ・次回のPan Pacific Conference on Pesticide Scienceの担当者について検討した。

10. 学術小集会関係

- ・学術小集会との懇談会に向けて，検討課題を整理した。

11. 農薬科学研究奨励金関連

- ・平成27年度農薬科学研究奨励金の公募スケジュールを確認し，審査方法について検討した。

12. 役員・評議員選挙関連

- ・選挙規定の変更を承認した。後日，評議員会で承認を求める予定である。
- ・平成26年度に実施される役員・評議員選挙の投票方法の告知について報告があった。

13. 入会案内パンフレット

- ・入会パンフレットのデザインについて報告があった。

14. 広報活動について

- ・農薬に関する一般的な情報を知らせる窓口の設置に関して検討した。

15. 第40回記念大会関係
 - ・大会の準備状況について説明があった。
 - ・記念事業として、記念式典、記念講演および既刊学会誌等のアーカイブ化について検討した。
 - ・企業と個人からの寄付依頼について報告があった。
 16. 入退会の報告（平成26年7月16日～平成26年8月31日）
 - ・入退会が承認された。入会は正会員5名、退会は正会員1名。
 17. その他
 - ・植物化学調節学会との大会相互乗り入れに関する覚書（平成27年3月31日まで）を承認した。両学会員は双方の学会に会員待遇で参加・発表できる。
- 第2回選考委員会（10月4日開催）において平成27年度日本農薬学会賞の候補者が選考され、評議員により承認済みであることが報告された。
 - ・功労賞の選考が終了し、評議員による承認手続きが進行中であることが報告された。
7. 植物保護科学連合
 - ・平成26年度の日本学術会議シンポジウム（12月6日開催予定）では、当学会からの推薦で三芳秀人氏（京都大学）が講演する。
 8. 三学会および日植防協会関係
 - ・平成26年11月17日に行われた三学会の事務打合せおよび日植防との打合せにおいて以下が協議された旨報告があった。
 - ・三学会事務打合せ：①各学会大会（次回）の開催日程の確認 ②三学会の連携への取り組み ③技術士育成推進委員会（五学会連携）への取り組み状況と情報交換の緊密化について ④電子投票システムの運用状況について ⑤各学会の法人化への取り組み ⑥次年度の三学会関係の担当幹事は日本応用動物昆虫学会が務める ⑦その他
 - ・日植防協会と三学会事務との打合せ：①平成26年度の日植防協会への事務管理費（人件費および事務費）補てん金について ②大会開催予定の確認と事務職員の出張について ③会員情報システムにおける電子投票システムの導入について ④学会の法人化への取り組みについて
 - ・平成26年11月17日に行われた三学会会長懇談会での議事内容として以下が報告された。①平成27年度日本農学賞について ②日本学術会議および日本植物保護科学連合について ③各学会の運営状況、大会開催予定について ④事務局経費について ⑤電子投票システムの運用状況について ⑥法人化への取り組みについて ⑦事務打合せでの協議内容の確認
 - ・三学会の大会開催予定は下記の通り。

日本植物病理学会	平成27年3月28日～31日 (明治大学)
日本応用動物昆虫学会	平成27年3月26日～28日 (山形大学)
日本農薬学会	平成27年3月18日～20日 (玉川大学)

平成26年度第4回常任評議員会議事録

日 時：平成26年11月29日（土）13:30～18:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長、副会長、常任評議員、第40回大会組織委員長 計15名

議 事：

I. 平成26年度第3回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 財務関係

- ・平成26年度収支の現状（1月1日から11月27日まで）について報告があった。
- ・寄付事業の進捗について報告があった。
- ・平成27年度予算について検討した。

2. 編集委員会

- ・JPS第39巻4号の公開および農薬誌第40巻1号の掲載予定について報告があった。
- ・平成26年度の投稿審査状況について報告があった。
- ・IUPAC2014関連記事の進捗状況について報告があった。

3. 環境委員会

- ・平成26年度の活動状況について説明があった。
- ・平成26年度の残留農薬分析セミナーの開催報告があった。
- ・農薬の理解促進のためのポータルサイトの構築プランおよび経費について報告があった。

4. 将来計画委員会

- ・法人化について植物病理学会と応用動物昆虫学会の動向が報告された。

5. ホームページ委員会

- ・次期体制への引き継ぎが順調であるとの報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

9. 日本農学会関連

- ・平成26年度第2回運営委員会（9月8日）の報告があった。

10. 技術士育成委員会関係

- ・技術士育成委員会（10月22日開催）について報告があった。農業部門・植物保護のこれまでの合格者

数は82名である。

11. 入会案内パンフレット
 - ・入会案内パンフレットの図案の説明があり、承認された。次回大会から配布できるよう準備を進めていく。
12. 研究会等開催経費補助
 - ・II International Symposium on Pyrethrum (2015年8月6~9日, 京都市) から研究会等開催経費補助申請があり, 協賛することが承認された。
13. 国際会議関連
 - ・次回のPan Pacific Conference on Pesticide Scienceは宮川元会長が担当されることが報告された。
 - ・2015年度の国際会議渡航費補助について検討した。
14. 学術小集会関係
 - ・会計処理の簡素化と統一について検討した。
15. 農薬科学研究奨励金関連
 - ・平成27年度農薬科学研究奨励金の申請が締め切れ、今後、スケジュールにしたがって審査に付されることが報告された。
16. 役員・評議員選挙関連
 - ・平成26年11月8日に開催された第3回選挙管理委員会について報告され, 次期役員選挙の結果を確認した。
 - ・電子投票システムは順調に稼働したことと今後の活用での改善点について報告があった。
17. 第40回記念大会関係
 - ・大会の準備状況について説明があった。
 - ・設立40周年記念事業の記念式典, 記念講演および既刊大会要旨集等のアーカイブ化について検討した。
 - ・大会前日の評議員会, 編集委員会, 常任評議員会の会場・スケジュールについて検討した。
18. 入退会の報告(平成26年9月1日~平成26年11月15日)
 - ・入退会が承認された。入会は正会員8名, 学生会員3名, 団体会員1, 退会は正会員8名。
19. その他
 - ・相互乗り入れを取り決めた植物化学調節学会の大会(10月17~19日, 京都市) に当学会より正会員2名, 学生会員1名が参加したとの報告があった。

平成27年度日本農薬学会賞の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された奨励賞, 業績賞(研究・技術)の受賞候補者について, 評議員(会長, 副会長を含む)による無記名投票を行った結果, 受賞者が下記の通り決定された。また, 編集委員会から推薦され学会賞受賞者選

考委員会で選考された論文賞候補についても評議員(会長, 副会長を含む)による無記名投票を行い, 受賞論文が決定された。

奨励賞

- ・野下浩二氏: カメムシ臭気成分の化学生態学的研究(秋田県立大学生物資源科学部)
- ・渡辺文太氏: 昆虫および植物ステロイドホルモンの構造活性相関(京都大学化学研究所)

業績賞(研究)

- ・中尾俊史氏: 昆虫RDL GABA受容体の構造と薬剤感受性に関する研究(三井化学アグロ株式会社)

業績賞(技術)

- ・上野英二氏: 農産物中残留農薬の多成分系統分析法の開発及び普及(愛知県衛生研究所)
- ・藤田茂樹氏, 平岡学氏, 池内利祐氏, 小林方美氏: 新規水稻用水面施用剤「豆つぶ剤」の開発(クミアイ化学工業株式会社)

論文賞

- ・Yutaka MOTOKI, Takashi IWAFUNE, Nobuyasu SEIKE, Takashi OTANI and Maki ASANO: "Effects of organic carbon quality on the sorption behavior of pesticides in Japanese soils" 39, 105-114 (2014)

会 員 異 動

(平成26年7月16日~平成26年11月15日)

入会

正会員

小林 方美	千葉 美子	下村 紘子	澤田石一之
葛西 雅博	坂元 君年	杉村 彩子	大高 聡仁
大石 桂輔	油田 卓士	廣木 英勝	井野由莉恵
神谷 峻介			

学生会員

大楠 賢	高田 大裕	福士 和伸
------	-------	-------

団体会員

長崎三笠化学工業株式会社

(受付順)

退会

大高 伸明	池田 幸恵	成瀬 英壽	武富 巖
田中 茂	沖園 清忠	勝又 卓己	野田 啓太
波田野未由来			

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛する会議等

2015年

3月

7日(土)～8日(日) 第13回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会

主 催：日本予防医学リスクマネジメント学会
会 場：東京大学医学部 [〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1]

U R L：http://www.jsrmpm.org/

18日(水)～20日(金) 第40回日本農薬学会大会

主 催：日本農薬学会
会 場：玉川大学 [〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1]

U R L：http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html

26日(木)～28日(土) 第59回日本応用動物昆虫学会大会

主 催：日本応用動物昆虫学会
会 場：山形大学農学部 [〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23]

U R L：http://59.odokon.org/

28日(土)～31日(火) 第100回日本植物病理学会大会

主 催：日本植物病理学会
会 場：明治大学駿河台キャンパス [〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1]

U R L：http://www2.nacos.com/pssj2015/

4月

18日(土)～19日(日) 日本雑草学会第54回大会

主 催：日本雑草学会
会 場：秋田県立大学 [〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西241-438]

U R L：http://wssj.jp/conference/

24日(金) 第32回農薬生物活性研究会シンポジウム

主 催：日本農薬学会，農薬生物活性研究会
会 場：東京農業大学 校友会館グリーンアカデミー 3F
大会議室 [〒156-0054 世田谷区桜丘3-9-31]

U R L：http://pssj2.jp/committee/kassei/kassei32.html

8月

24日(月)～27日(木) 第18回国際植物保護会議(IPPC2015)

主 催：International Association for the Plant Protection Sciences (IAPPS)

会 場：Free University Berlin [Henry Ford Building, Garystraße 35, 14195 Berlin-Dahlem/Germany]

U R L：http://www.ippc2015.de/general-information/welcome-note/

10月

15日(木)～16日(金) 第38回農薬残留分析研究会および第33回農薬環境科学研究会

主 催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会および農薬環境科学研究会(合同開催)

会 場：名鉄犬山ホテル [〒484-0082 愛知県犬山市犬山北古券107-1]

U R L：http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu38.html

U R L：http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky33.html

11月

12日(木) 第30回農薬デザイン研究会

主 催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会
会 場：メルパルク京都 [〒600-8216 京都府京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676番13]

日本農薬学会第40回記念大会ランチョンセミナーの御案内

日本農薬学会第40回記念大会は平成27年3月18日（水）から20日（金）までの3日間にわたって玉川大学にて開催されますが、会期中の昼食時に昼食（お弁当）付のランチョンセミナーが開催されます。ランチョンセミナーのプログラムは下記のように決まりましたので、御案内致します。是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

●3月19日（木） 12:15～13:15

B会場（玉川学園視聴覚センター B101）

日本チャールス・リバー株式会社

「Assessment of Operator, Worker and Bystander Exposure to Agrochemical Products」

David Macpherson (Head of Chemistry and Field Trials, Charles River Edinburgh)

D会場（玉川大学5号館247）

株式会社菱化システム

「コンピューターを用いた農薬・医薬分子設計手法とその応用事例のご紹介」

小林誠一（株式会社菱化システム・科学技術システム事業部）

E会場（玉川大学5号館249）

WIL Research Company, Inc. [世話役（株）スリーエス・ジャパン]

「Introduction to EU Regulatory Ecotoxicology for Agrochemicals」

Iris van de Gevel (MSc., ERT, Regulatory Affairs Manager, WIL Research Company, Inc.)

●3月20日（金） 12:15～13:15

D会場（玉川大学5号館247）

ハンティンドンライフサイエンス株式会社

「Metabolism & Residues Studies: livestock & fish, requirements around the world」

Dr. Peter Aikens and Mr. David Cameron (Huntingdon Life Sciences, Huntingdon, UK)

E会場（玉川大学5号館249）

LANDIS INTERNATIONAL, INC. [世話役（株）エルエスピー]

「Current Challenges in the US Regarding PRIA 3 and Registration of a New Active Ingredient—米国PRIA 3と新規有効成分の登録における最近の課題—」

Ms. Lisa Setliff (LANDIS INTERNATIONAL, INC., USA)

F会場（玉川大学5号館425）

Quotient Bioresearch [世話役 ビオリッジ(株)]

「Synthesis of Radiolabelled Agrochemicals」

Judith Smith PhD (Business Development, Chemistry & Metabolism, Quotient Bioresearch)

「Low level radioactivity counting in agrochemicals development」

Andrew McEwen PhD (Chief Scientist, Department of Metabolism, Quotient Bioresearch)

日本農薬学会設立40周年記念事業に対する寄付について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より日本農薬学会の活動にご指導とご理解を賜り誠にありがとうございます。

設立40周年記念事業の推進にあたり皆様にお願ひ申し上げました寄付につきましては、1月31日をもちまして締め切りとさせていただきます。多くの方々にご賛同を賜り、誠にありがとうございました。お寄せいただいた寄付金は、予定されております設立40周年記念事業に有効に役立てて参ります。

末筆となりましたが、皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

平成27年2月吉日

日本農薬学会
学会長 浅見 忠男

立春をかなり過ぎ、北日本では降雪がある一方、処処で梅の便りが聞かれる。西から北上する桜前線に対し、梅前線は南岸から素直に北上し、同じ天満宮でも湯島の梅は太宰府よりかなり早い。梅と言えば、梅干し、梅酒も馴染み深い。アルコール離れのご時世に梅酒の消費量はしっかり伸びているようだ。確かに、居酒屋にも多彩な銘柄が並ぶ。梅の産地は花の名所とは別で、昨年では圧倒的な和歌山の次に群馬、福井、神奈川、奈良の順に多い。結実しにくい品種もあり、紀州の南高梅は有名だが、自家受粉できず、栽培には最近話題のミツバチが必須である。これは科学の目でしっかり捉えていくべきことだ。それとは別に、この梅干しの美味しさを知っている今では、値段への影響も気になるところである。

さて、今号では、来年度の学術小集会等の予定のほか、目前となった設立40周年記念大会のランチョンセミナーの案内が掲載されている。設立40周年記念式典、記念講演、記念祝賀会も予定され、ミツバチについての特別講演もある。いずれも必聴のプログラムを多数含むので、参照されたい。桜には早いですが、自然豊かな玉川大学で春を感じながら、40周年を共に祝いいただきたい。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp